

商工センター地区街づくり構想

伊藤 學 人
(協同組合広島総合卸センター)
理 事 長



私が理事長を務める協同組合広島総合卸センターは創立以来50年近く経過し、その果たすべき役割も大きく変化してきました。創設時は、集団化によって進出してきた組合員に対する金融機能の発揮が主流でしたが、現在では環境整備へと転換しているところです。特に、現在地をいかに活性化し、人・もの・情報が溢れる街にするか。かつ、現在の物流機能を損なうことなく、この地で商売していて良かったと思ってもらえる街にするかが、環境整備だと考えています。そこで、当組合が最近行っている取り組みについてご紹介します。

1. 商工センター地区の成り立ち

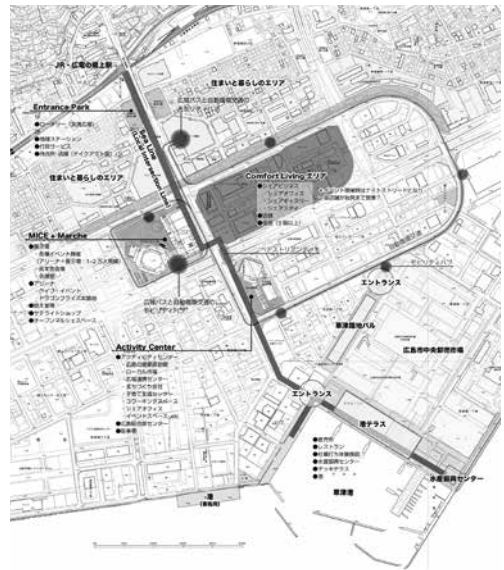
商工センター地区は、広島市が1964年から1982年の19年に亘り、過密化している市街地の再開発、交通渋滞の緩和及び流通機能の近代化・合理化を図るという目的で、現在の広島市西区沖の海面を埋め立て造成した地域で、そこに市街地にあった市場や卸、倉庫、運輸などの企業が集団で移転し、流通業務地域が形成されました。

その後、1985年にJRの新駅（最寄り駅）として新井口駅が開業し、同年以降、複合型施設（ホテル・式場・会議場等）である「広島サンプラザ」が開館し、1990年には複合型商業施設「アルパーク（延べ床面積 約6万坪）」がオープンしたことにより、新井口駅を中心に住宅地が開発され、その南に商業地域が広がる現在の街の姿になりました。

2. 街づくり構想提案までの経緯

協同組合広島総合卸センターは、1976年に商工センター地区に進出した卸業者で結成した組合（現在の組合員数211社、準組合員数73社）で、施設の老朽化や業態の変化、周辺地域の商業化などに対応するため、2015年度に6施策からなる組合活性化計画を策定しました。

この計画は、組合員の老朽化した施設の更新のための諸施策や人づくり、防犯・防災対策、「卸町」のサイングラフィック展開等で構成されており、現在もこの計画は逐次実施されています。その中で、私たちが最も重視していた「地域の核となる新しい施設の整備」については、広島サンプラザを会議場兼用の展示場（MICE施設）に建て変えることを中心とした「商工センター地区の街づくり提案」であり、これを広島市長に提言し、かつ広島市と協議を重ねておりました。そ



の協議は停滞し、なかなか前に進みません。そこで、当組合としては2020年から2年間でMICE施設を中心とした3D画像による商工センター地区の具体的な街づくり構想を策定することとしました。地域の他の協同組合の方々等とも協議を行い、2022年7月には計画も完成。その後、広島市長に説明を行い、大変共感してもらえるものとなりました。



3. 街づくり構想の概要

商工センターは、広島市西部に位置し、JR、市電（路面電車）、高速道などへのアクセスが良く、港もあって、北は山陰、南は瀬戸内海にもつながり、人やものが集まり易い地域で、商工センター地域にある広島市中央卸売市場の建て替えに伴う賑わい施設の導入やMICE施設が誘致されれば、さらに人・もの・情報が溢れる街になると予想されます。

そこで、商工センターを「広島の西の玄関口」として「広島・西瀬戸そして世界の豊かな時間が体験でき、楽しめる街」になるよう構想を策定しました。

それには、まず一般の来訪者と既存の物流等の動線を分けながら共存できるようにし、賑わいと産業振興の両立が図れるようにする必要があります。そのため、ペDESTリアンデッキを新井口駅から広島市中央卸売市場のそばの草津港まで延伸するとともに、自転車やキックボードなどで街を回遊できるルートと駅や港、各商業施設をつなぐ循環交通を整備して地域内の交通ネットワークを構築することが望ましいと提案しています。

提案の一部を下記により紹介します。

- ① JR新井口駅と近接する広電商工センター駅について、利用客の大幅増加が見込まれることから、両駅の再整備（橋上化等）を行うことで混雑の緩和を図り、駅隣接地に車の乗降場を設置して利便性の向上を推進する。
- ② ペDESTリアンデッキについては、市場まで延伸するとともに、幅員を広げ、通路だけではなく、憩い楽しめる空間を創出する。
- ③ MICE施設については、広島サンプラザ及びその周辺に、大規模な国際会議や学界等の全体会議やレセプション、展示、イベントを開催できる6,000平米の会議場兼展示場・ビジネス用ホテルの複合施設の建設を提案。プロバスケットボール・ドラゴンフライズのメインアリーナとして使用できる8,000人の観客席を有すアリーナを整備することとし、両施設は、DX機能を備え、世界各地をつなぐ会議・展示やホログラムのコンサート・スポーツイベントが開催できるものとする。なお、国際会議等の分科会や宿泊については、市街地の施設がその役割を担うなど、相互に連携を図って、広島全体でMICE事業を行っていくこと。
- ④ 草津港については、観光港の機能を付加するとともに、瀬戸内海を眺望できる展望デッキやレストランを整備する。等々

4. 街づくり構想の実現に向かって

この提言を受けた広島市は、「街づくりについては、2024年度をめどに、公民連携の下で、街づくりビジョンを策定する」として、構想の実現に前向きに取り組んでいくこととされています。

広島市や関係者、そして地域の方々のご尽力により、できる限り近い将来、この街づくり構想が実現し、商工センター地区に人・もの・情報が溢れ、それが広島の発展に繋がっていけば素晴らしいと考えています。